

## 【活動報告】



学校法人 富山国際学園

**富山短期大学**

## 大学概要（大学紹介）

昭和 38（1963）年 4 月、富山短期大学の前身である富山女子短期大学は、県内高卒女子に高等教育の機会を与えたいとの県民の強い要望に応えるために、政官民の一致協力の下設立された。

その設立趣意書には、建学の基本として次のように謳われている。「真に近代社会が要請する婦人像を求め、家庭婦人としても職業婦人としても基本的に必要な、人間愛を基調にした高い知性、広い教養、そして健全にして豊かな個性と、社会性に富む調和のとれた全人的な婦人形成を建学の基本とする。」

平成 12（2000）年に、男女共学の富山短期大学となってからは、この建学の基本に基づいて、「高い知性、広い教養、そして健全にして豊かな個性をもった地域社会に貢献する人材の育成」を教育の目的（学則第 1 条）としている。

現在は、食物栄養学科、幼児教育学科、経営情報学科、健康福祉学科、専攻科食物栄養専攻の 4 学科 1 専攻を擁し、収容定員は 670 名である。

## 事業概要、実施体制

### (i) 「大学教育再生加速プログラム」(AP) 事業の位置付け

上記の教育目的を実現するために本学では、入口（入学）から出口（卒業）までの「質向上」と「質保証」を伴った大学教育を目指して、平成 24 年度に「三つの方針（DP・CP・AP）」を策定した。教育の「質向上」と「質保証」を実現するには、各種の持続的な改善のための PDCA サイクルを日々の教育活動の中に組み込む必要がある。

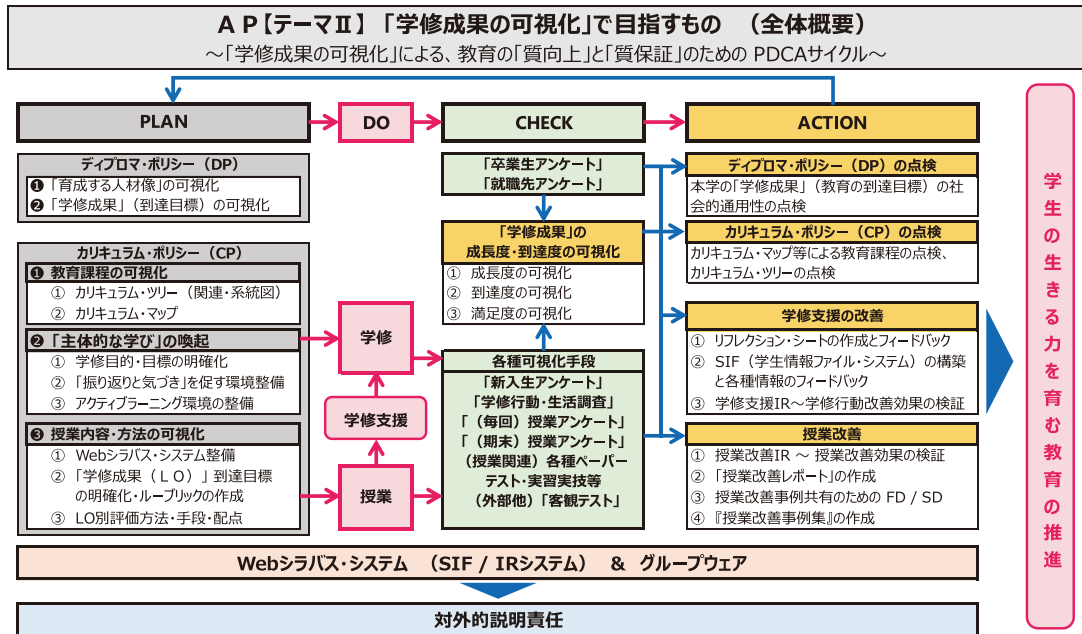
そこで平成 26 年度に選定された AP 事業（テーマ II）では、①教育の「質」のベンチマークである「学修成果（Learning Outcomes）」の把握と可視化、②授業・学修・教育課程の改善を行うための仕組み作り、③第三者評価を PDCA サイクルに反映させる仕組み作り、④教職協働による教育改善・改革の機動的な推進体制の強化を、主要な柱とした。

### (ii) 「学修成果の可視化」で目指すもの～誰に対する、何のための「学修成果の可視化」？

教育の「質向上」と「質保証」のための PDCA サイクルを日々の教育活動に組み込む上で、「学修成果（Learning Outcomes）」の可視化は効果的かつ効率的な手段となる。

具体的には、本学の AP 事業では、「学修成果」に関する可視化されたデータ等（エビデンス）で PDCA サイクルを絶えず回し、持続的な授業改善・学修改善・教育課程の改善等を実現して、「学生の生きる力を育む教育」を推進するとともに、「学修成果」に関する対外的説明責任を果たすことを目指している。すなわち、

- ① 学生に対する「学修成果の可視化」によって、「振り返りと気づき」（リフレクション）を促し、「学習意欲」の向上と「主体的な学び」の喚起を促す。
- ② 教員に対する「学修成果の可視化」によって、授業内容・方法、評価手段・方法等の改善を促す。  
平成 28 年度からは、教員間で授業改善事例の共有を図るために、FD / SD 研修会での事例発表や『授業改善事例集』の作成を行っている。
- ③ 学科に対する「学修成果の可視化」によって、教育課程編成及び CP（カリキュラム・ポリシー）の改善や、DP（ディプロマ・ポリシー）、AP（アドミッション・ポリシー）の点検・見直しを促す。
- ④ ステークホルダーを初め第三者に対する「学修成果の可視化」によって、「対外的説明責任」を果たすとともに、第三者評価を PDCA サイクルに反映させる。



## 活動実績（実施項目別）

### (i) AP 事業における取組概要

既に述べたように本学の AP 事業では、「学修成果」に関する可視化されたデータ等（エビデンス）で PDCA サイクルを絶えず回し、授業改善・学修改善・教育課程の改善等を継続的に実現して、教育の「質向上」と「質保証」を図ることを目指している。具体的には、PDCA サイクルを回すためのシステム化を中心に以下の 4 つの取組を推進している。

#### ①「学修成果の可視化」のためのシステムの構築

「学修成果 (LO1～LO5)」別の成績入力、各種学生アンケートでの学生による到達度・成長度の自己評価入力、入力データの集計と定型フォーマットによる出力等を全て Web シラバス・システム上で行う仕組の構築。

#### ②情報のフィードバック・共有のためのシステムの構築

学生に各種情報をフィードバックするための「学生情報ファイル・システム (SIF)」、及び教職員間で情報を共有するための「グループウェア・システム」の構築。

#### ③第三者評価の PDCA サイクルへの反映

富山短期大学外部評価委員会、「第三者アンケート」等で得られた第三者評価を DP・CP の点検・見直しへ反映。

#### ④IRの推進と FD / SD を通じた教職協働による教育改善の推進

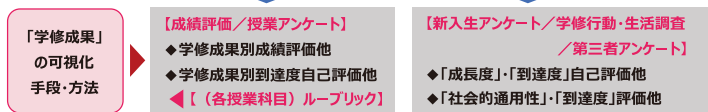
Web シラバス・システム上で実施された各種学生アンケート結果等から得られたパネルデータを活用して、授業改善 IR・学修支援 IR を推進し授業改善・学修改善・教育課程の改善等につなげる。

### (ii) 「三つの方針 (DP・CP・AP)」の見直しと「学修成果」の明確化

平成 28 年度に、「三つの方針 (DP・CP・AP)」の整合的・体系的な見直しを行った。

新たな DP (ディプロマ・ポリシー) では、本学が育成する人材が身に付けるべき資質・能力として次の「5 つの力」を規定した。すなわち、①実践の土台となる「専門的知識・技能」、②実践を支える「思考力・判断力・表現力」、③生涯学び続け成長するための「主体的に学ぶ力」、④他者を尊重し多様な人々と共に共通の目標の実現に貢献できる「協働力」、⑤健全で豊かな「人間性」である。

「5つの力」(全学DP)・「学修成果」の「5つの基準」・「17の具体的な資質・能力」			
(DP) 育成する人材像 身に付けるべき「5つの力」	「学修成果」の 「5つの基準」	身に付けるべき 「17の具体的な資質・能力」	「21世紀 型能力」 (NIER)
1 実践の土台となる「専門的 知識・技能」	(LO1) 知識・理解	① 幅広い教養・一般常識 ② 専門分野の基礎的な知識	【基礎力】 (基礎的 リテラシー)
	(LO2) 技能	③ 専門分野での実践に必要な技術・技能 ④ PCや情報機器を操作する力 ⑤ 分かりやすく伝える力・プレゼンテーション力 ⑥ 分かりやすく文章にまとめる力	
2 実践を支える「思考力・ 判断力・表現力」	(LO3) 思考力・判断力・ 表現力	⑦ 問題点・課題を発見して、 論理的に問題・課題を解決できる力	【思考力】 (認知 スキル)
3 生涯学び続け成長するための 「主体的に学ぶ力」	(LO4) 関心・意欲・ 態度	⑧ 自分の適性や能力を把握する力 ⑨ 自学自習する力・習慣	【実践力】 (社会的 リテラシー)
		⑩ 自分で目標を設定し、計画的に行動する力 ⑪ ねばり強さ・持続力・集中力 ⑫ チャレンジ精神 ⑬ 自己効力感や自信・自己肯定感	
4 他者を尊重し多様な人々と共 に共通の目標の実現に 貢献できる「協働力」	(LO5) 人間性・社会性	⑭ 多様な価値観・考えを持つ人々の理解と尊重 ⑮ 社会的責任の自覚と高い倫理観 ⑯ 地域や社会に貢献する意識	
		⑰ 協働して共通の目標の実現に貢献する力	
5 健全で豊かな「人間性」			



この「5つの力」に対応して、「学力の三要素」を考慮した「5つの基準」((LO1) 知識・理解、(LO2) 技能、(LO3) 思考力・判断力・表現力、(LO4) 関心・意欲・態度、(LO5) 人間性・社会性)を設定し、この「5つの基準」別に各学科・各授業科目で育成する具体的な資質・能力(「学修成果」)を明示している。

さらに、「学修成果」の全学的な共通のベンチマークとして、「5つの基準」に対応させた「17の具体的な資質・能力」(平成28年度までは21)を規定して、「学修成果」の到達度・成長度を把握している。

### (iii) 「学修成果」の把握・可視化方法

「学修成果」の把握・可視化は次の方法によっている。

- ① 教員は、Web シラバスに記載した、「学修成果 (LO1～LO5) 別配点基準」と「ルーブリック」に従って、「学修成果 (LO1～LO5)」別に各授業科目の成績評価を行う。
- ② 学生は、学期末の「授業アンケート」において、当該授業での「学修成果」の到達度を、「5つの基準」ごとに自己評価する。
- ③ ①と②により、授業科目毎ならびに学科全体(教育課程)で、「学修成果 (LO1～LO5)」別の到達度を把握することが可能となり、レーダーチャート化している。
- ④ 学生は、1年次後期初・2年次初に行う「学修行動・生活調査」において、「17の具体的な資質・能力」の成長度に関する自己評価を行う。
- ⑤ 学生は、入学時の「新入生アンケート」及び卒業時の「学修行動・生活調査」において、「17の具体的な資質・能力」の到達度について、同年代の学生と比較した自己評価を行う。
- ⑥ ④と⑤により、学科全体(教育課程)で、「17の具体的な資質・能力」別、「5つの基準」別の成長度と到達度を把握することが可能となり、グラフ化している。

これらの教員による評価、学生アンケートにおける自己評価は、すべて Web シラバス・システム上で行われている。その結果、「授業アンケート」はすべての授業科目で実施され、学生の回答率も高い水準を確保できている。また、学生アンケート結果から得られるパネルデータを利用して各種 IR を推進している。

### (iv) 「授業改善」のための仕組みとその成果

#### ① 「授業改善」のための PDCA サイクルの定着と FD による共有

Web シラバスで行っている「(毎回) 授業アンケート」(リフレクション・シート)では、①理解度、②興味・関心度、③授業への参加度、④授業外学習時間、⑤授業内容のポイントのまとめ、⑥授業内容に関する「問い」の生成(Question Making)、⑦自由記述を行っている。これによって、学生の理解度、興味・関心度、学習意欲等をリアルタイムで把握することができ、次回の授業の設計に役立てることができる。

「(期末) 授業アンケート」は、授業改善のための強力な手段となっている。同アンケートは Web シラバス・システム上で実施されるため、アンケートの集計結果は直ちに定型フォームで出力され、教員ならびに学生に開示される。

平成27年度より、教員はこれに基づいて、同じく Web シラバス・システム上にある定型の「授業改善レポート」を作成し提出することとした。「授業改善レポート」の内容は、①取り組んだ授業改善の概況、②課題、③改善計画の3項目である。

平成28年度からは後期のFD研修会で、この「授業改善レポート」に基づいて、各学科から1名の教員が「授業改善事例」を報告し、その内容を年度末に『授業改善事例集』として纏め、教員間で改善内容・方法等の共有に努めている。

## ②「授業改善」の進展とその効果・成果

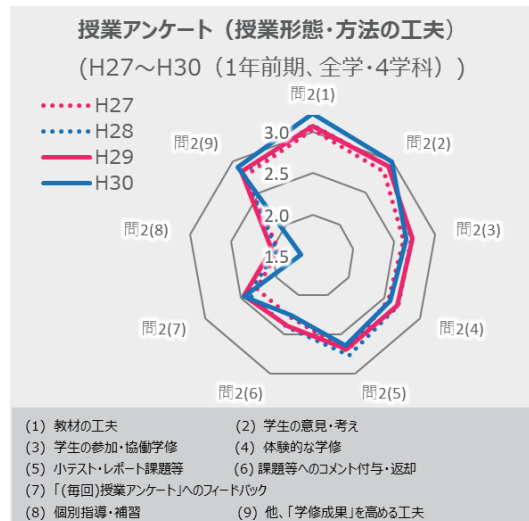
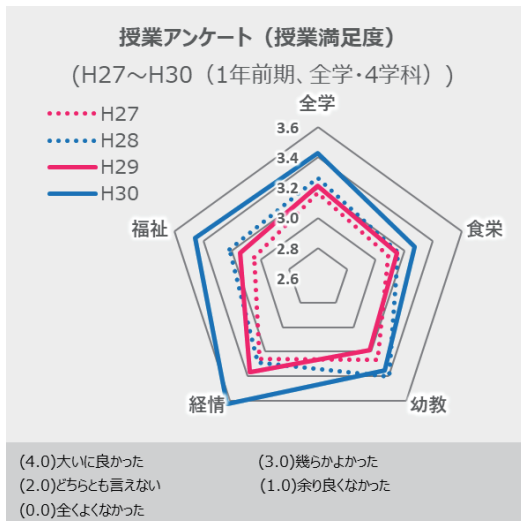
右の表に見られるように、平成27年度以降、「授業改善」の進展が顕著である。

その効果・成果は、「(期末)授業アンケート」における、「授業満足度」の上昇に見られる。

授業形態・方法の工夫としては、様々な工夫がなされている。特に、改善が顕著な例としては、「(毎回)授業アンケート」(リフレクション・シート)へのフィードバックが多く、多くの授業でなされるようになった点。次いで、グループワーク等の学生の「参加・協働学修」を促す授業や体験学習を取り入れる授業の増加が顕著である。

主な指標に見る、「授業改善」の進展

	(平成)	26年度	30年度
① ルーブリックにより、成績評価基準の可視化を行っている科目の割合(専任)	%	未測定	100.0
② アクティブラーニング授業科目の割合(専任)	%	44.0	73.2
③ 授業外学習時間を調査している科目の割合	%	44.2	100.0
④ 「(期末)授業アンケート」実施科目の割合	%	41.0	100.0
⑤ 「授業改善レポート」作成教員の割合(専任)	%	0.0	97.5
⑥ 「授業改善レポート」作成科目の割合	%	0.0	74.5



## (v)「学修行動」改善のための仕組みとその成果

### ①「主体的な学び」のための「振り返りと気づき」を促す仕組み作り

「学修成果」の向上には「主体的、対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)が欠かせず、そのためには学生自身の「振り返りと気づき」(Reflection(内化))が必要である。

「振り返りと気づき」(Reflection(内化))を促すには、「書く・話す・発表する・「問い」を生成する」等、知識・理解や思考、技術等を表現(外化)する作業や、グループワークや協働学修等において互いに表現し合い、自らを客観化・相対化する作業が効果的である。

Web シラバスでは、「(毎回)授業アンケート」(リフレクション・シート)で、①理解度、②興味・関心度、③授業への参加度、④授業外学習時間、⑤授業内容のポイントのまとめ、⑥授業内容に関する「問い」の生成(Question Making)を行い、「振り返りと気づき」を促す一助としている。

特に、⑥で生成された「問い」に関しては、次回の授業で学生にフィードバックすることで、個々人の多様な理解の程度・仕方・興味・関心に応じた、1対1の個別対応が可能となり、一人一人の「振り返りと気づき」を促す上で効果的である。

「学修成果」に関する各種情報は、SIF（学生情報ファイル・システム）を通じて学生にフィードバックされ、学生の「振り返りと気づき」を促す一助としている。すなわち、「学修成果（LO1～LO5）」別成績評価と自己評価はレーダーチャート化され、学科平均・科目群平均との比較もできるようになっている。各種学生アンケートの集計結果もSIFにフィードバックされ、自らの客観化・相対化に資するようにしている。併せて、ラーニング・コモンズやグループワーク専用ルーム、プレゼンテーション・スタジオ等アクティブ・ラーニング環境の整備も進めている。

## ②「学修行動」の変容と「学修成果」の向上

### ①「学修行動」の変容

例えば、平成27年度から30年度の1年前期の授業科目に関する授業アンケート結果を比較すると、授業外学修時間には顕著な改善が見られる。また、自主的な学修や良い成績をとるための努力といった「主体的な学び」の姿勢が着実に改善している。

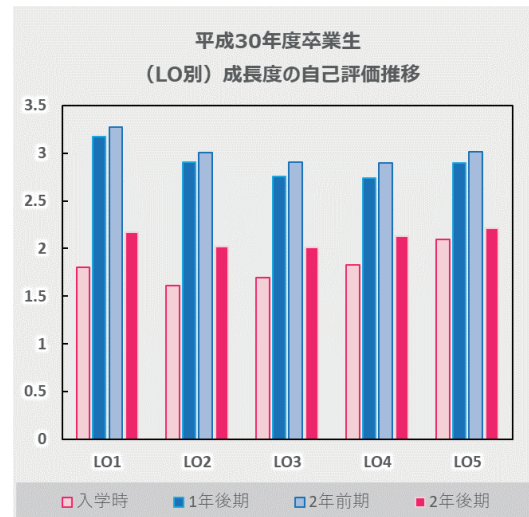
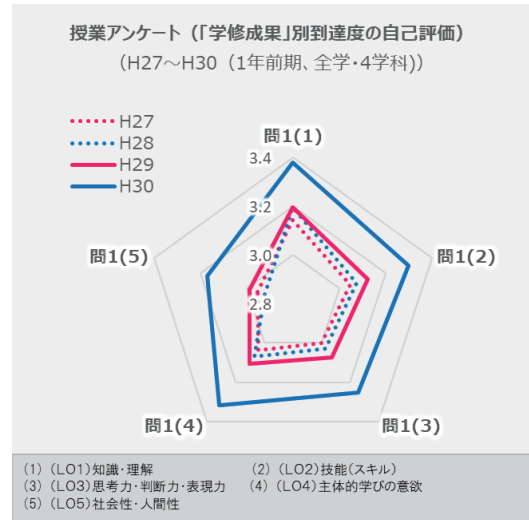
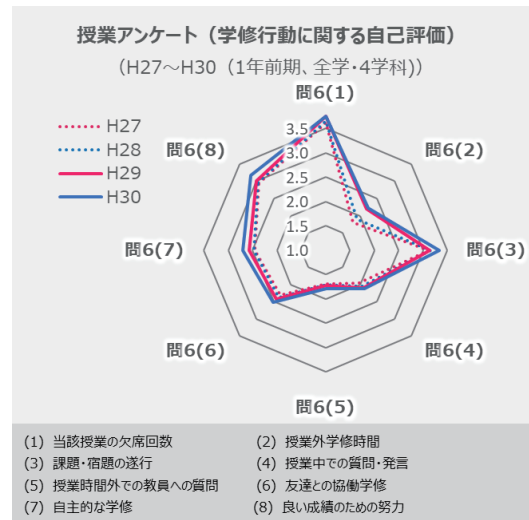
### ②「学修成果」の向上

同様に、平成27年度から30年度の1年前期の授業科目に関する授業アンケート結果から、「学修成果」の「5つの基準（LO1～LO5）」別到達度の自己評価を見ると、全ての「学修成果」において着実な向上が見られる。

### ③「学修成果」に関する成長実感

1年後期初、2年次初の「学修行動・生活調査」では、先に掲げた全学的な「学修成果」のベンチマークである「17の資質・能力」について成長度を自己評価している。

右図は、平成30年度卒業生の入学時から卒業時までの「学修行動・生活調査」で「17の資質・能力」について成長度の自己評価を「学修成果」の「5つの基準」別に見たものである。なお、入学時は、到達水準の同年代との比較を訊いている。概ね、成長実感が高まっていることがグラフから読み取れる。



## (vi) 教育課程の体系化と「カリキュラム・マップ」による点検・見直し

平成24年度に、文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得て、授業・学修支援システムである「Webシラバス・システム」を構築した。このシステムがAP事業における「学修成果の可視化」のプラットフォームとなっている。

シラバスをWeb上に載せるにあたっては、学科別・科目群別に授業科目の関連性と系統性を考慮したナンバリングを行うことが必須であった。また、関連性・系統性が明示されたので、「科目関連系統図」をWebシラバスに掲載し、学生の学修の一助としている。

平成 27 年度には、「Web シラバス・システム」内で、各学科の「カリキュラム・マップ」を自動的に作成できるようにした。これは、Web シラバスに記載されている、各授業科目の「学修成果（L01～L05）」別配点を集計したものである。

この「カリキュラム・マップ」と「学修成果（L01～L05）」別成績評価ならびに学生による到達度・成長度の自己評価を比較することによって、各学科のカリキュラム編成が DP（ディプロマ・ポリシー）に沿ったものであるか否かをチェックできるようになるとともに、CP（カリキュラム・ポリシー）の観点から各授業科目の「学修成果」、「学修成果」別配点、ひいては授業内容等の点検を行うことが可能となった。

こうして各学科では、毎年度、「学修成果の可視化」によって得られたエビデンス等に基づいて、カリキュラム編成の点検・見直しを行っている。

### (vii) 「第三者アンケート」等による第三者評価と PDCA への反映

#### ①「富山短期大学外部評価委員会」の設置と運営

平成 27 年 3 月から、学識経験者やステークホルダーから成る「富山短期大学 外部評価委員会」を設置し、年 2 回開催している。

外部評価委員会は、学外者の立場から検証及び評価を行い、AP 事業に限らず広く本学の教育研究活動の質的向上及び管理運営等の改善に資することを目的としている。

外部評価委員会では、毎回、AP 事業に関する議題を取り上げ、対外的説明責任を果たすとともに、外部評価委員の評価・意見・アドバイス等を PDCA サイクルに反映させ、AP 事業の改善につなげている。

#### ②「第三者アンケート」の実施

平成 27 年 11 月、本学の卒業生を対象とした「卒業生アンケート」、ならびに本学卒業生の就職先を対象とした「就職先アンケート」を実施した。小規模の「第三者アンケート」は毎年実施しているが、大規模な調査は数年おきに行うこととし、平成 29 年 12 月にも第 2 回目を実施した。

「第三者アンケート」の目的は次の 3 点である。

- ① 社会で求められている・期待されている「学修成果」（資質・能力（リテラシーとコンピテンシー））の明確化。すなわち、本学卒業生の採用時に求められる資質・能力、及び仕事に必要な資質・能力を明らかにし、DP ならびに CP の改善に反映させる。
- ② 社会から求められている、社会から評価される授業内容・工夫の明確化。
- ③ 本学卒業生の「学修成果」（資質・能力（リテラシーとコンピテンシー））、ひいては本学の「教育成果」に関する就職先と卒業生の評価。

第 1 回	平成 27 年 3 月 16 日（月）	① 「大学教育再生加速プログラム（AP）」事業について ② 「第三者アンケート」調査項目について
第 2 回	平成 27 年 9 月 18 日（金）	① （平成 27 年度前期）アンケート結果の概要と今後の課題・対応 ② 「就職先 アンケート」・「卒業生アンケート」の実施要領・調査票
第 3 回	平成 28 年 3 月 9 日（水）	① 「（富山短期大学）第三者アンケート」結果及びその活用について
第 4 回	平成 28 年 8 月 25 日（木）	① 「AP 事業 1 年延長計画」について ② 「富山短期大学 2015 年度入学者の追跡調査」について
第 5 回	平成 29 年 3 月 13 日（月）	① 「AP 事業活動の概要」について ② 「学修成果」の分析について
第 6 回	平成 29 年 9 月 22 日（金）	① 「授業改善」効果の検証について
第 7 回	平成 30 年 3 月 14 日（水）	① 「富山短期大学 第三者アンケート」結果について ② 「AP 事業の中間評価」及び「中間報告書」について
第 8 回	平成 30 年 10 月 30 日（火）	① 「2018 年度 富山短期大学 教育課程改善レポート」について
第 9 回	平成 31 年 3 月 19 日（火）	① 「平成 31 年度 AP 事業（学修成果の可視化）の取り組み」について
第 10 回	令和元年 9 月 17 日（火）	① 「2015～2019 年度（期末）授業アンケート」に見る教育成果と課題について

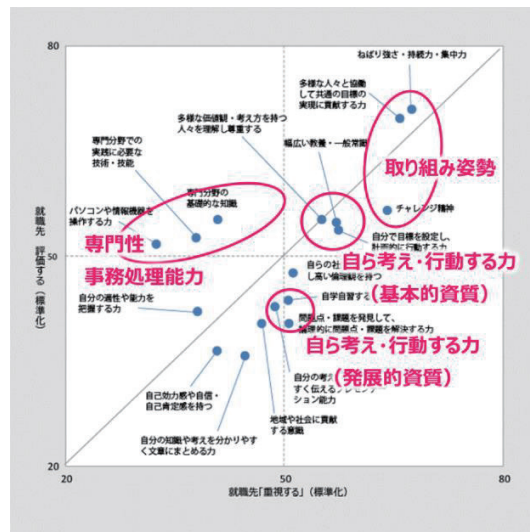
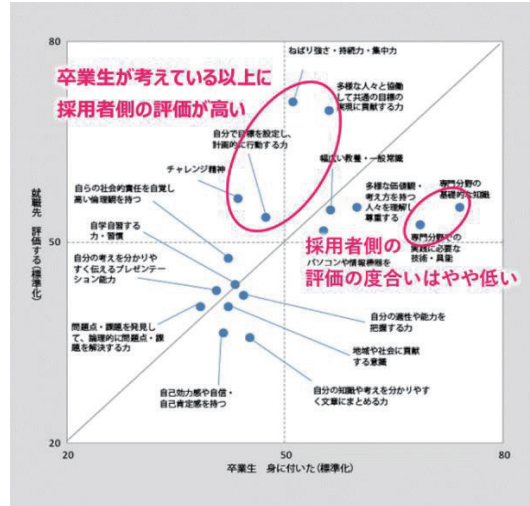
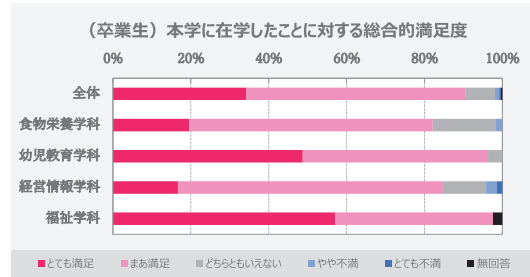
実施年月	平成 27 年 11 月
送付卒業生	過去 3 年間の卒業生 1,070 人 回答数（回答率） 247 人（23.1%）
送付就職先	過去 7 年間の卒業生の就職先 852 先 回答数（回答率） 420 先（49.3%）
実施年月	平成 29 年 12 月
送付卒業生	過去 5 年間の卒業生 1,719 人 回答数（回答率） 226 人（15.5%）
送付就職先	過去 7 年間の卒業生の就職先 982 先 回答数（回答率） 478 先（48.7%）

平成 29 年度の「第三者アンケート」結果の主なポイントは次の様である。

- ①卒業生は、本学に在学したことについて概ね満足している。
  - ②(職種によって異なるが総じて) 就職先が本学卒業生を採用するに当たって重視する資質・能力は、専門分野の基礎的知識・技能 (LO1) や、広い意味での情報リテラシー (LO2) 等ではなく、まず協調性・協働能力 (LO5)、次いで粘り強さ、チャレンジ精神、計画的行動力、自学自習力 (以上、LO4)、課題解決力 (LO3) 等であった。
- これらの採用時に就職先が重視する資質・能力については、就職先は現在の卒業生をそれなりに高く評価をしている。
- ③しかしながら、これらの資質・能力について、卒業生が在学中にどの程度身に付けたかを訊くと、専門分野の基礎的知識・技能 (LO1) や、PC や情報機器の操作力やデータの収集・整理・理解力といった広い意味での情報リテラシー (LO2) に関しては高く自己評価しているものの、上記の (LO4)、(LO3) については低い評価となっている。

このように就職先が (LO5) や (LO4) を重視していることに鑑みて、「三つの方針」を改訂するに当たっては、DP における「学修成果」の内容を見直し、特にそれまで「21 に資質・能力」としていた全学的なベンチマークを「17 の資質・能力」に改めた。

このように、外部評価委員会での議論や「第三者アンケート」の結果を、教育の「質向上」と「質保証」のための PDCA サイクルに反映している。

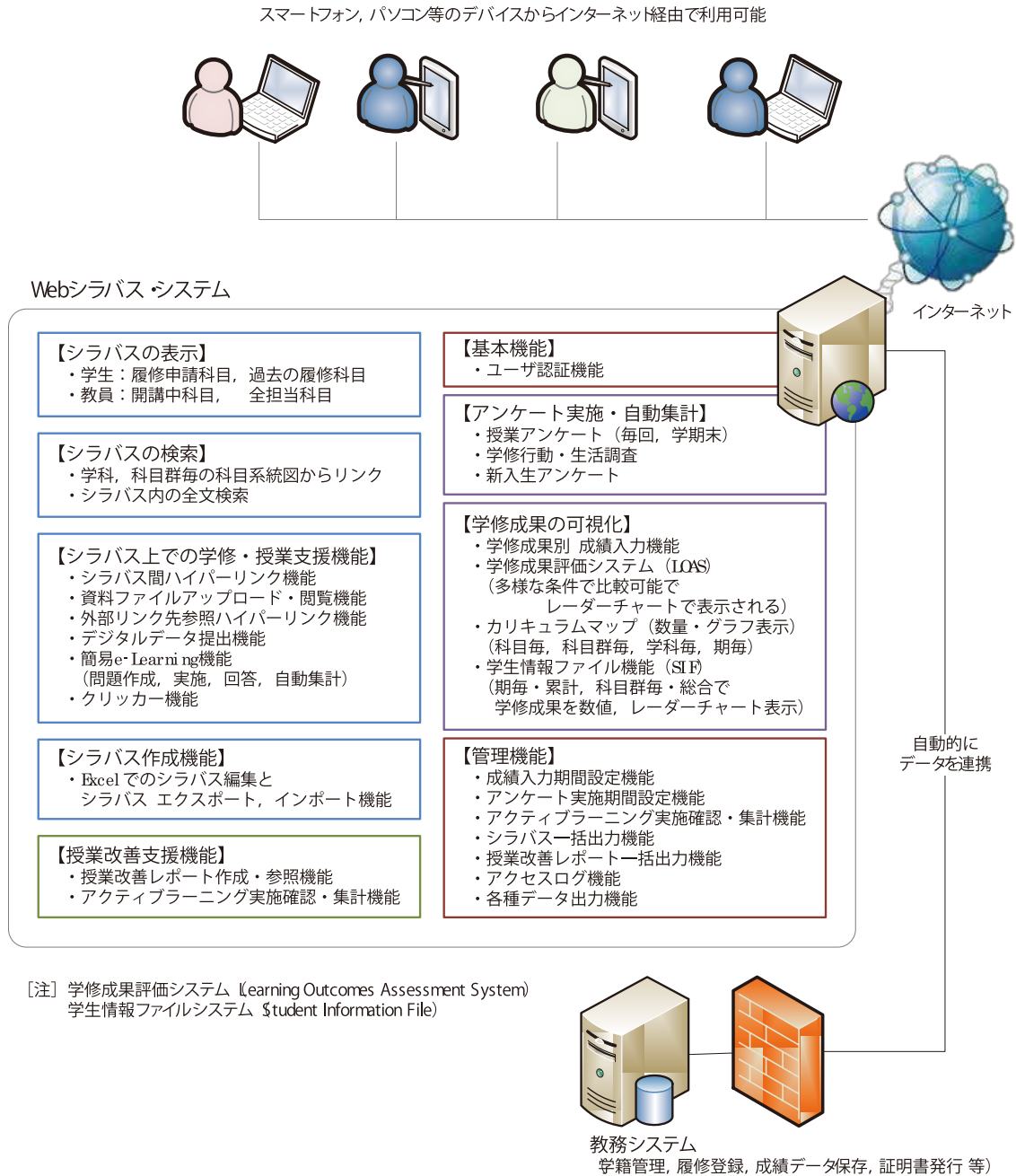




(viii)PDCA サイクルを支えるシステムの概要

①全体システムの概要

これまで述べてきた各種活動や学修成果の可視化のための中心的なシステムである Web シラバス・システムの全体概要、および Web シラバス・システム内の各種機能は以下の図のとおりである。



Web シラバス・システムはまず、平成 24 年度に文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得て構築された。

当初は、シラバスを Web 上に載せ、いつでもどこからでも学習できる「ユビキタス学修環境」を整備し、学生の「主体的学び」を促すことを目的に構築された。従って、パソコンだけでなく、最近の学生の大半が所持しているスマートフォンからでも利用可能とし、表示やアンケートの回答等もデバイスに応じて最適化されている。

Web シラバス・システムの主な機能は下記の 4 点である。

- ①当初は、「学修・授業支援システム」として設計・構築された。そこでは、科目関連系統図を掲載し、履修科目間の関連性・系統性を示すとともに、同図から当該シラバスに入れるようにしてある。キーワードによるシラバス内の検索機能や、関連する授業科目のシラバスへのリンクも可能となっている。課題提出機能、e-Learning 機能、クリッカー機能をも装備し、双方向の授業を支援している。AP 事業に選定されてからは、同システムの機能を拡張し、「学修成果の可視化」による PDCA サイクルのプラットフォームとしている。すなわち、
- ②「(毎回・期末) 授業アンケート」等各種学生アンケートの実施・自動集計・出力機能。
- ③「学修成果の可視化機能」として、カリキュラム・マップの自動作成機能、学修成果 (LO1 ~ LO5) 別成績入力機能や、学生が獲得した学修成果を可視化する学修成果評価システム (LOAS : Learning Outcomes Assessment System)、学生へ情報をフィードバックするための学生情報ファイル・システム (SIF : Student Information File) 等。
- ④「授業改善支援機能」としては「授業改善レポート」作成・参照機能等がある。

## ② Web シラバスの掲載項目

Web シラバスに掲載される項目は、科目に関する基本項目が 10 項目、関連科目に関する項目が 3 項目、評価方法に関する項目が 3 項目、授業概要に関する項目が 3 項目、各回の授業内容に関する項目が 5 項目の、下記に示す計 24 項目である。

科目に関する基本項目	関連科目に関する項目
科目名称	前提科目 (前提知識)
科目コード	関連科目
科目区分 <sup>[注1]</sup>	後継科目
開講時期	評価方法に関する項目
必修・選択区分	学修成果別の学生が獲得すべき具体的な成果
授業の方法 <sup>[注2]</sup>	学修成果別, 評価方法別の配点
単位数	学修成果別の評価基準 (ルーブリック)
担当教員名	各回の授業内容に関する項目
資格等取得との関連	授業内容詳細
テキスト・参考書等	事前学習に関する事項
授業概要に関する項目	事前学習に必要とされる標準的な時間
授業の概要	事後学習に関する事項
学習目標	事後学習に必要とされる標準的な時間
キーワード	

[注1] 専門/教養の別, 科目群

[注2] 講義, 演習, 実習等

## 事業成果と課題

平成 28 年度をもって、「Web シラバス・システム」をプラットフォームとする、「学修成果の可視化」による教育の「質向上」・「質保証」のためのシステムの開発・構築がほぼ一段落した。平成 29 年度以降は、これらのシステムから得られた各種データを活用して、教育の「質向上」と「質保証」のための PDCA サイクルの実質化と改善活動の本格化、「対外的説明責任」のためのエビデンスの整備を図っていくことが課題である。

具体的には以下の 5 点。

### ①「学修成果」の評価・アセスメント方法の精緻化

対外的「説明責任」をきちんと果たし、本学の教育に対する地域・社会からの信頼を一層高めるには、「可視化」する「学修成果」指標の信頼性を高めること、すなわち「学修成果」の精緻な評価手段・方法の開発・工夫が必要となる。

特に、「思考力・判断力・表現力」(LO3)、「主体的に学ぶ力」(LO4)、「協働力」(LO5)をどのように評価・アセスメントするのか。「ルーブリック」の精緻化・活用や「アセスメント・テスト」の開発も含めて、その評価手段・方法の開発が根本的に求められている。

### ②「アセスメント・テスト」の開発・活用

これまでのところ、「学修成果」の可視化は、教員による成績評価と学生による主観的な自己評価によっている。「学修成果」指標の信頼性を高めるには、「アセスメント・テスト」等の導入によって、「学修成果」の客観的な可視化が求められる。

そこで現在、(一社)学修評価・教育開発協議会において、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を測定するための方法・テストの開発を進めている。

### ③「学修支援 IR」の推進による「主体的な学び」の促進

「学修成果」の向上を図る上で重要な課題は、学生の「主体的な学び」を促すことである。

「主体的な学び」・「高い学習意欲」が良好な「学修成果」と高い相関にあることは、各種の学生アンケート結果から検証されている。

そこで「主体的な学び」や「高い学習意欲」を喚起する上で効果的な授業内容・方法や学修支援・個別指導の在り方はどのようなものか、各種学生アンケートから得られるパネルデータ等に基づいた「学修支援 IR」を推進することが喫緊の課題である。

### ④「授業改善 IR」の推進による「学修成果」の向上

「学修成果」を高める授業形態・方法、特にアクティブ・ラーニング型授業の手法・工夫はどのようなものか、各種学生アンケートから得られるパネルデータ等に基づいた「授業改善 IR」を推進していくことも喫緊の課題となっている。

### ⑤その他 IR の推進

各種データをパネルデータとして活用し、効果的な入学者選抜方法の在り方、就職支援の在り方等についての検討を始めることも今後の課題である。

**【参考1】AP（テーマⅡ）事業の実施状況と計画**

富山短期大学 AP（テーマⅡ：学修成果の可視化）事業の実施状況・計画	
平成	主な活動
24年度	Webシラバス・システム（以下、WSS）の構築 【注】文部科学省、「私立大学教育研究活性化設備整備事業」
25年度	WSSの機能拡張 【注】以降、上記補助金で、アクティブ・ラーニング環境の整備を推進
26年度	★ 文部科学省、「大学教育再生加速プログラム（AP）」（テーマⅡ）に選定
27年度	① WSSの機能拡張～各種学生アンケートの実施・集計・定型フォーマットによる出力機能他 ② 富山短期大学外部評価委員会の設置（以降、毎年度2回開催） ③ 広報用パンフレット『富山短期大学 教育改革プロジェクト～未来へつなぐ。地域へつなぐ。～』の作成 ④ 「アクションプラン（2015～2017）」策定 ⑤ 各種学生アンケートの実施【WSS内】 ⑥ 「カリキュラム・マップ」自動作成機能を追加【WSS内】 ⑦ 「学修成果評価システム（LOAS）」の構築・運用開始【WSS内】 ⑧ 「第三者（就職先・卒業生）アンケート」の実施 ⑨ 「授業改善レポート」の作成 ⑩ 「グループウェア・システム」の構築
28年度	① 「三つの方針（DP・CP・AP）」の総合的・体系的見直し ② 「学生情報ファイル・システム（SIF）」の構築【WSS内】 ③ 「授業改善事例」に関するFDの開催と『授業改善事例集』の作成 ④ 広報用Webページの作成/AP（テーマⅡ）選定8校の広報用パンフレットの作成
29年度	① 授業改善IRに着手 ② クリック機能の追加【WSS内】 ③ 「第三者（就職先・卒業生）アンケート」の実施 ④ シンポジウムの開催 ・（平成30年2月16日）テーマⅡ・テーマⅤ合同シンポジウム（於：東京品川） ・（平成30年2月20日）全テーマ合同シンポジウム（於：京都光華女子大学） ⑤ 『AP中間報告書』の作成/AP（テーマⅡ）選定8校の『実績報告書』の作成
30年度	① 授業改善IRの推進 ② 学修支援IRの推進 ③ 「アセスメント・テスト」の開発・導入 【注】（一社）学修評価・教育開発協議会 ④ 共同シンポジウムの開催（APテーマⅡ・テーマⅣ）
令和 元年度	① 授業改善IRの推進 ② 学修支援IRの推進 ③ 『AP最終報告書』の作成/AP（テーマⅡ）選定8校の『実績報告書』の作成 ④ 富山短期大学外部評価委員会による最終評価 ⑤ テーマⅡ「学修成果の可視化」成果報告会

**【参考2】AP（テーマⅡ）事業における数値目標と達成状況**

A P（テーマⅡ）事業における数値目標と達成状況【マスター】										
テーマにおける必須指標		26年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
1	退学率 [%（退学者（除籍者を含む）/在籍者数）]	0.5	2.9	2.0	1.7	2.0	2.3	2.0	1.6	2.0
2	プレースメントテストの実施率 [%（テスト実施者/入学者数）]	26.9	29.6	54.5	62.5	54.5	88.6	100.0	100.0	100.0
3	授業満足度アンケートを実施している学生の割合 [%（実施学生数/在籍者数）]	44.0	90.2	95.0	85.8	95.0	77.8	95.0	93.0	95.0
4	授業満足度アンケートにおける授業満足率 [%]	81.1	80.5	80.0	82.4	80.0	82.6	80.0	84.8	80.0
5	学修行動調査の実施率 [%（実施学生数/在籍者数）]	44.0	90.2	100.0	85.8	100.0	77.8	100.0	93.0	100.0
6	学修到達度調査の実施率 [%（実施学生数/在籍者数）]	44.0	90.2	100.0	85.8	100.0	77.8	100.0	93.0	100.0
7	学生の授業外学修時間 [時間数（1週間当たり（時間））]	約8.0	10.7	20.0	11.0	20.0	14.3	20.0	13.9	20.0
8	学生の主な就職先への調査 [実施の有無]	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
各大学等の任意の指標		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
1	学修成果別の成績評価の実施割合 [%（実施科目/開講科目）]	0.0	28.8	25.6	39.2	25.6	40.6	80.0	42.0	80.0
2	学生の授業外学修時間を調査している科目の割合 [%（同上）]	44.2	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	80.0	100.0	100.0
3	「学生情報ファイル・システム」等を用いた学生への個別指導実施の割合 [%（対象学生/学生合計）]	未測定	未測定	4.5	4.8	4.5	5.7	13.6	5.0	13.6
4	各科目の評価平均値が基準値以内の割合 [%]	未測定	未測定	60.0	69.8	60.0	60.3	80.0	62.3	80.0
5	授業時に授業アンケートやミニツクバー等を用いて学生からの反応を資料として確認している回数が、全授業回数の3分の2以上の授業科目数の割合 [%、専任のみ]	36.9	37.7	60.0	52.2	60.0	40.3	80.0	52.2	80.0
6	学期末の授業アンケートを実施する科目数の割合 [%]	44.2	100.0	60.0	100.0	60.0	100.0	80.0	100.0	100.0
7	アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合 [%、専任のみ]	41.9	44.7	55.0	58.5	55.0	51.7	66.8	73.2	66.8
8	学生1人当り年間アクティブ・ラーニング科目受講数 [専任科目数]	12.1	13.2	18.0	18.1	18.0	15.4	20.0	28.2	20.0
9	アクティブ・ラーニングを導入した授業形態が「講義」科目の授業科目数の割合 [%、専任のみ]	23.6	33.1	25.0	53.5	25.0	43.5	40.0	59.4	40.0
10	卒業生へのアンケート調査 [有無]	未実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
11	専任教員1人あたりのFD研修参加回数 [回]	1.5	3.1	2.0	8.5	2.0	6.3	2.5	7.8	5.0
12	非常勤講師1人あたりのFD研修参加回数 [回]	0.0	0.2	0.5	0.4	0.5	0.1	1.0	0.6	1.0
13	ルーブリックの導入による成績評価基準の可視化を行っている専任教員担当科目の割合 [%]	未測定	未測定	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
14	「授業改善レポート」を作成している専任教員の割合 [%]	0.0	未測定	95.0	94.7	100.0	97.5	100.0	97.5	100.0
15	「授業改善レポート」を作成している授業科目の割合 [%]	0.0	未測定	63.0	62.8	70.0	67.7	75.0	74.5	80.0